

テクノロジーの市場破壊

エクスポネンシャル（加速度的）な ICT の進化が、種々の業界を「破壊」（ディスラプト）しつつあります。そんな中、身近なところで、テクノロジーが市場を破壊した／しつつある例を紹介します。

私は、国際弁護士事務所を東京で経営しています。最近の大きな変化として、「国際電話を使わなくなった」ことが挙げられます。理由は、以下の2つです。

- (1) LINE、WHATSAPP、SKYPE、MESSENGER 等の無料通話アプリの普及
- (2) WHATSAPP 等のチャットツールを利用して、タイムリー・緊急の連絡ができる

振り返れば、数年前までは、国際電話をしばしば使っていました。そのため、国際法律事務所では、「英会話ができる（国際電話の応対ができる）秘書」の需要がありました。

例えば、英会話ができない普通の秘書の時給が1200円だとすれば、英会話ができる秘書の時給は、それより数百円増して、「市場」があったのです。

しかし、今は、1分300円（!）もする国際電話は、まず使いません。英会話ができる秘書の応対を通さずに、直接、弁護士と、SKYPE 等で会話をしてしまいます。

つまり、「英会話ができる秘書」の市場がなくなったのです。「（電話応対等の簡単な）英会話ができる」というだけでは、付加価値を生まなくなったのです。

これは弁護士のみならず、他の業界でもさほど変わらないと思います。まさに、「テクノロジーが市場を破壊」した例と言えるでしょう。

エクスポネンシャルな時代、今後、様々なシーンで、同様の「テクノロジーによる市場破壊」が起きると思います。

エクスポネンシャルなテクノロジーに「破壊」される前に、惰性的に旧弊に安住しようとする自らを「破壊」して、新たな時代に備えたいものです。

以上